

たかはま

だからこそできる
すてきな
まちづくり

演じる人も 見る人も 真剣勝負！

この一瞬に熱い想いを

込めて演じます



▲ちよいポケ一座 メンバー
中川勝利さん(呉竹町)
「認知症博士」スタイルは今ではおなじみ
となっています。

皆さんは、「認知症」についてどれ
だけ知っていますか？「認知症サ
ポーター」の皆さんが中心となって
公演をしている「ちよいポケ一座」で
は、認知症についていろいろな視点
からユーモアを交えて普及・啓発
を行っています。その「ちよいポケ
一座」の立ち上げ当初から活動に関
わっている中川勝利さんにお話を聞
いてみました。

「しょうがない」とはじめて
私でしたが

最初は、市から「小学生へ認知症
に関する授業をしてほしい」と頼ま
れ「しょうがないなあ…」と思っ
てはじめて覚えています。小学校
での第一回目の公演は、寸劇ではな

く紙芝居でした。とても子どもたち
の反応がよく「もっと自分も勉強しな
きゃ」と思い、どんどん前向きに取り
組むようになってきました。そして、「子
どもだけでなく大人も楽しめるもの
を」と思い、今の寸劇スタイルをみん
なでつくりました。

だんだん広がる仲間の輪

初期のメンバーは少なく、2場
面しかありませんでしたが、一人あ
たりの台詞が多く大変でした。

今は、寸劇を見て「私もやってみ
たい！」と参加してくれる方や、認
知症に関心がある方がメンバーに
入ってくれて、一人あたりの負担が
少なくなりました。また、場面が3
場面になり、役のバリエーションも

豊富になってレベルが上がってきた
ように感じています。メンバーの雰
囲気も年々よくなり皆さん一生懸命
演じてくれています。

見てくれる人もレベルアップ

認知症について年々理解が深まり、
見る方もレベルが上がっているよう
で、「今年は〇〇がよかったよ！」
「小学校の人も参加させてみなよ」と
ご意見をいただくことが増えてきま
した。それだけ、真剣に寸劇を見て
いただいているという熱意を感じて
います。見に来てくれる人は、「家
族が認知症かも…」「私も他人事
じゃないから」と何か目的を持って
真剣に聞いているので、それに応え
られるよう頑張っていきたいです。

ちょっとした

きっかけになってほしい

ちよいポケ一座を見て、認知症の
すべてを理解することはできません
が、認知症について家族や知人と考
えるきっかけになると思います。子
どもでも退屈せず楽しめる内容と
なっています。

もし、ちよいポケ一座を見て、
「もっと知りたい」「もっと広めた
い！」という方は、いっしょにやつ
てくれる仲間になってほしいです。

市役所保健福祉グループの保健師に聞いてみました！

ちよいポケ一座に関わっている
保健師の皆さん



松本保健師

伊藤保健師

伊藤保健師

◆「認知症」ってなんですか？

誰にでも起こりうる脳の病気で、記憶障害や認知障害と
いった症状が表れますが、周囲の理解や気遣いがあれば、
穏やかに暮らすことができます。

◆「認知症サポーター」について教えて！

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、偏
見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守
る応援者です。誰でもサポーターになることができます。

ちよいポケ一座をととして、少しでも多
くの人に正しい認知症の知識を理解して
もらいたいです。



①昨年度本番のようす。今年度で7年目を迎え
たちよいポケ一座。「認知症になっても安心して
暮らせる地域をつくりたい」という想いが話
まっています。

②練習風景。今では、メンバーでシナリオを考え
たり、練習の中で意見を出し合いわかりやすい
内容にしようと努めています。

③観客のアドバイスを取り入れ、2年前から小学
生にも出演してもらっています。

問合せ先 いきいき広場内保健福祉グループ ☎ 52-9871